

## 視 野

岩瀬愛子

多治見市民病院・岐阜大

今回より本会の名称は「グループディスカッション・視野」から「専門別研究会・視野」となった。まず、冒頭に大鳥利文会長より挨拶、続いて、日本の視野研究に多くの業績を残された故湖崎弘先生のご冥福をお祈りして会場全員で黙禱を捧げた。次いで、1994年7月に Washington, D. C. で開催された第11回国際視野学会 (XI IPS) の報告を北澤克明国際視野学会副会長よりしていただいた。

今回の演題は17題で、途中で会場の座席を追加するほどの盛況ぶりであった。座長は、可児一孝教授 (滋賀医大)、松本長太先生 (近畿大学)、溝上國義助教授 (神戸大)、北原健二教授 (東京慈恵医大) をお願いした。

**第1席 視野スクリーニングにおける測定点自動追加システム**—小町祐子・他 (滋賀医大)：自動視野計 SBP 2020 を用い、通常のスクリーニング検査の後に自動的に測定点を追加する方法が報告され、数学的測定点算出法を临床上に応用するためには改善が必要とのことであった。

**第2席 視野異常自覚検出法における至適条件の検討** (ノイズフィールドテストとコンピューター点滅画面)—安達 京・他 (東大)：ホワイトノイズ画面とコンピューターを用いた12種類の点滅パターン (市松模様を一定の周波数でランダムに白黒周期させる) で緑内障性視野異常検出力を比較し、点滅、サイズ、速度ともアトランダムな自然発生ノイズのほうが優れていたと報告した。

**第3席 緑内障における High-pass resolution perimetry と明度識別視野測定と比較**—岩垣厚志・他 (近畿大)：High-pass resolution perimetry (HRP) と Octopus 201 の相関性を検討したところ、HRP の閾値のリング指標が大きくなるほど、そのリング指標上の明度識別視感度のバラツキが大きくなる傾向だったと報告した。

**第4席 異なった自動視野計による視野解析**—吉川

啓司・他 (オリンピアクリニック)：Humphrey 視野計 (HFA) の測定結果と Octopus 視野計の測定結果を視野解析ソフト Peridata 上で比較し、異なった自動視野計の測定結果の比較を試み、Peridata が、緑内障の経過観察に有用であると報告した。

**第5席 DICON TKS 4000 視野計の使用経験**—稲積幸介・他 (岐阜大)：DICON TKS 4000 の緑内障視野異常スクリーニングにおける有用性を HFA の測定結果との一致度で検討し、良好な結果を得たと報告した。

**第6席 簡易暗順応計 SST-1 の臨床試験**—前田修司・他 (弘前大)：アイカップ型の暗順応計である SST-1 を用いて光覚閾値を測定し、临床上、特に視神経炎、緑内障のスクリーニングおよび重症度判定に役立つと報告した。

**第7席 PERISTAT 433 (Rodenstock) の使用経験**—前田秀高・他 (神戸大)：PERISTAT 433 を用いて緑内障、正常眼における中心30度以内の感度測定を行い、初期緑内障症例においては“RAPID” Strategy のスクリーニングにおいて視野障害の程度が軽く評価される場合があると報告した。

**第8席 眼球回旋運動の自動視野計測定結果に及ぼす影響**—大西香代子・他 (神戸大)：自動視野計の従来の固視監視方法では見逃されている眼球回旋運動について検討し、測定中の眼球回旋によって視野異常点の位置判定にずれが生じている可能性があることを報告した。

**第9席 傍中心部視野閾値と視神経乳頭耳側網膜神経線維層変化との関連について**—中尾浩子・他 (岐阜大)：Heidelberg retinal tomograph (HRT) と HRP と HFA の測定結果を比較して正常眼圧緑内障では固視点近傍の視野閾値は乳頭耳側網膜神経線維層の平坦化と相関していることを報告した。

**第10席 早期緑内障におけるフリッカー視野と明度識別視野の長期経過について**—松本長太・他 (近畿大)：Octopus 1-2-3 を用いた自動静的フリッカー視野測定により緑内障性早期視野異常を検出された症例を長期に経過観察し、フリッカー視野測定が明度識別視野測定に比べ早期に緑内障性視野変化を検出することを報告した。

**第11席 眼底直視下の時間変調感度測定**—湯川英一・他 (奈良県立医大)：赤外線 TV 眼底カメラを用い網膜の位置に対応した時間変調感度分布、CFF の測

定を可能にした装置を考案し測定結果を報告した。

第12席 Ramp 刺激による視神経の受容野特性の検討—永田啓・他（滋賀医大）：正常被験者においてSBP 2020 を利用した Ramp 刺激による受容野特性を検討し側抑制が強く、Yシステムとは異なったものであると考えられたと報告した。

第13席 錐体系および杆体系視野計測の緑内障における特徴—高橋現一郎・他（東京慈恵医大）：正常眼、緑内障眼で自動視野計において青錐体系を分離して検索しその結果を報告した。

第14席 網膜色素変性症における夜盲の有無と錐体杆体系視野—富田直樹・他（名大）：改良型静的視野計を用い網膜色素変性症の夜盲の有無には視野中心部の杆体系感度が大きく関与していることが示唆されたと報告した。

第15席 走査レーザー検眼鏡を用いた黄斑円孔の

静的視野—太田眞理子（大阪市立総合医療センター）：黄斑円孔により固視不安定な症例に走査レーザー検眼鏡（SLO）用スコトメトリー装置を用いて網膜感度を測定可能であることを示し病態観察に有用とした。

第16席 特発性黄斑円孔の治療的硝子体手術後の中心視野—館奈保子・他（愛知医大）：特発性黄斑円孔の手術前後でOctopusM1プログラムによる検討をし、術後中心網膜感度は術前の中心網膜感度より術前視力との相関のほうが、術後視力を推測するのに有用とした。

第17席 後頭葉病変による同名半盲症例についての視野改善の定量的検討—小山佳津子・他（兵庫医大）：Goldmann 視野計を用い、後頭葉病変の積極治療群とビタミン剤内服群との比較を行い、ステロイド剤の投与による視野改善を示した。

## MEDICAL BOOK INFORMATION

医学書院

# 健康運動のガイドライン

編集 日本医師会  
●A5 頁144 図35 写真7 1994  
定価1,800円(税込) 千400  
[ISBN4-260-10850-6]

- 日本医師会雑誌の付録。
- メディカルチェックと運動負荷試験、成人病予防・治療のための運動指導までを一貫して簡明に分りやすく解説した。

## NEW MEDIA INFORMATION

医学書院

# 今日の診療 CD-ROM Vol.5

Macintosh版 新規購読

PC-98DOS+Windows版 新規購読

(おのおのに連続購読、隔年購読、学生・レジデント新規購読があります)

●定価66,950円(税込) [ISBN4-260-19709-6]

●定価66,950円(税込) [ISBN4-260-19713-4]  
Windowsには簡易対応

「今日の治療指針'94&'95」「今日の診断指針 第3版」「今日の小児治療指針 第10版」「今日の検査指針 第2版」「治療薬マニュアル1995年版」「救急中毒マニュアル」の7冊を1枚のCD-ROMに収録。診療の流れに沿った各書籍間を縦横に検索可能。キーワード検索、目次検索、全文検索と多彩な機能が特徴。現代の診察室のバイブル。